



秋空のもと、村総合体育大会開かれる



2015年度東海村総合体育大会が10月12日開かれ、開会式に招待があり出席しました。今年は、スポーツを楽しむ約3700名の参加で、盛大に開催されました。一時より参加者が少なくなっているとのことですが、就学前からご高齢まで、みなさんすがすがしい表情で元気に入場行進されていました。勝敗、技術の上手下手というより、身体を動かすことが大好き、スポーツ大好きな元気な村であり続けたいですね。

今年の選手宣誓は、役場野球チームの選手でした。村がめざす協働のまちづくりを推進する立場での宣誓は、初めてでしょうか。頼もしく力強い、長〜い宣誓に大きな拍手が湧きました。皆さん、一日怪我なく楽しまれた事と思います。

ひたちなか市議選、日本共産党が2議席確保



10月25日投票で行われたひたちなか市議選で、日本共産党は2議席を確保できました。20年ぶりの回復です。現職の山形由美子さんと、元はなのわ保育園園長（この3月まで在職）の宇田貴子さんの2議席となりました。

「戦争法廃止、東海第二原発の再稼働ストップ、暮らしを守る市政の実現」を公約にたたかいましたが、期待を寄せる市民の声が本当にたくさん届けられました。公約実現に全力を!!

戦争法推進で、自衛隊が戸別訪問し入隊勧誘

—北海道

真っ先に海外に派兵されることになるといわれる北海道。旭川市の夏の夜、自衛隊の広報と名乗る男性が、「18歳から26歳のお子さんはいませんか」と、その対象年齢の青年がいる家庭を訪問し、入隊の勧誘を行っている。訪問されたある家族が、市役所に問い合わせたところ、職員は、「自衛隊からの要請で18歳から26歳の「適齢者」の住所、氏名、性別、生年月日のリストを出し、自衛隊が閲覧して書き写していると語った。道南の街では、中学校3年生がいる家庭も訪問している。旭川市に問い合わせた家族は、「とんでもないことになった。自衛隊に、うちの子は内定先が決まっていますと答えるのが精一杯だった。もし親がいない時間帯に訪問され、本人が対応していたら…。戦争法によって正直ここまできている。戦争に行かせるために子どもを産んだのではない。心底怒りに震えた」と述べられたそう。

自衛隊のなりふり構わぬ勧誘の背景には、戦争に対する高校生の関心が高まり、“自衛隊離れ”がある。除隊を申し出る青年隊員が相次ぎ、駐屯地から「脱走」する隊員も出ているとのこと。

北海道議会では、日本共産党の道議が、議会で「自衛隊の家庭訪問が求人ルールに違反するのではないか」と追及。教育長は、「新規学卒者の求人活動の秩序維持がはかられるよう自衛隊に協力を求める」と答弁しています。